

科目	動物病理学		
担当講師	内布洋一		
実務経験有	獣医師、獣医学博士、財団法人でウイルスおよびワクチン研究に従事。50年勤務		
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護学科、管理学科管理コース 2年次前期	講義	必修	30
授業目標 病気とはどのような現象か、どのような原因で病気が成立するか、また、臨床病理学にはどのような種類の病気があるかを学ぶ。また、病気に伴う生体内（細胞・組織）の基本的変化と名称の定義を学ぶ。更に、代謝障害、炎症、腫瘍、遺伝病、免疫異常疾患等とはどのような病気があるか、それらの病気による病理学的、臨床的变化について学ぶ。なお、高齢化に伴う生体の生理・機能的変化および多発しやすい疾患についても学ぶ。			
授業概要 病理学の概要、正常な細胞・組織とその病的変化、新陳代謝障害、炎症、腫瘍、先天的異常、免疫疾患等について学ぶ。			
成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。			
教材 動物看護コアテキスト 2.動物の疾病と予防及び回復 (3) 3.動物看護の実践 (6) ファームプレス 講師配布資料			
授業計画 毎週金曜日 1限目 10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容	
1	1.動物病理学の概要	病理学とは、動物病理学で何を学ぶか、病理学の歴史 病気とはどのような現象か、その定義、病気の分離と種類 病気の原因と成因	
2	2.細胞・組織およびその変化	細胞と組織の種類、機能、その生理的变化（増殖、分化、死） 上皮細胞（組織）と非上皮細胞（組織）、組織の実質と間質 細胞死（生理的死、自死、病的死、寿命死）	
3	3.細胞・組織の病的変化 1) 退行性の病変	細胞・組織の障害に伴う変化およびその種々相、変性とその種類、 萎縮、壊死（凝固壊死、融解壊死、壊疽）	
4	3.細胞・組織の病的変化 2) 進行性の病変	肥大、過形成、再生と修復、肉芽組織、創傷治癒 器質化、移植	
5	3.細胞・組織の病的変化 3) 循環障害	貧血、虚血とショック、充血とうっ血、出血 血栓と塞栓、梗塞 リンパ系の障害と水腫（浮腫）	
6	4.新陳代謝障害	代謝機能障害と物質沈着障害、それらによる主要疾患とその成因 （糖尿病、黄疸、尿酸塩沈着症、アミロイドーシス、結石症、等）	
7	5.炎症 1) 炎症総論	炎症の特徴、定義、炎症に関与する細胞および液性因子 急性炎症の5徴候、急性炎症の転機	
8	5.炎症 2) 急性炎症	変質性炎と滲出性炎、 漿液性炎、カタル性炎、線維素性炎、化膿性炎、出血性炎、 壊疽性炎、過形成性炎、特異性炎	
9	5.炎症 3) 慢性炎症	過形成性炎（繁殖性炎と増殖性炎、特異性炎の組織学的特徴、 慢性疾患の転機	

10	6.腫瘍 1) 腫瘍総論	腫瘍の定義、腫瘍の細胞および組織学的特徴、 腫瘍の発生原因、成因と外因、内因、腫瘍発生の機構、 腫瘍の種類（良性と悪性）およびその相違、癌と肉腫
11	6.腫瘍 2) 腫瘍各論	腫瘍の転移と再発の機序 イヌ、ネコ等に多く認められる主な腫瘍とその特徴
12	7.先天性異常疾患	先天性異常疾患とその原因、発生機序、 奇形とは、奇形の発生機構、先天異常と染色体異常、主な遺伝病
13	8.免疫機構の異常に伴う疾患	高等動物の免疫機構およびその破綻 アレルギー疾患の種類と特徴、免疫寛容と自己免疫疾患 免疫不全症とその原因、免疫系増殖疾患
14	9.高齢化に伴う変化 10.病理学的診断法	高齢化に伴う生体の生理的・機能的変化、高齢化に伴う疾患 病理学的検査、診断法